

町田市立金井小学校（2年目）

【校長】 三瓶 昌信
 【児童数】 546名
 【学級数】 21学級
 （特支を含む）



次の取組へ

【課題・改善】

【課題】

・「健康的な生活を送るようにしている」を調査した結果、肯定的な回答をした児童の割合に、上昇が見られなかった。

【改善】

○保健や食育の学習の充実

・体育に比べ学習頻度が少ない領域のため、教科等横断的な学習も含め、計画的かつ効果的な学習を行う。

○継続した実践と改善

・今後教職員の顔ぶれが変わっても、変わらない指導ができるよう、指導ノウハウや教材教具を引き継げる体制を整える。

目標

- ・体力調査における「実技に関する調査」で8項目とも上昇した児童を80%以上にする。
- ・質問紙において、「体育の授業は楽しい」とする児童を90%以上にする。
- ・「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか」で「大切でない」児童を10%にする。
- ・朝食を食べない児童を0にする。
- ・児童のけがの件数を減らす。

【成果】

・「上達するために大切なこと」を調査した結果、第3から第6学年の「自分の動きを映像や写真で見る」と答えた児童の割合が33%から44%に増加した。

・「体育を好きな理由」を調査した結果、第1・第2学年では「得意な教科だから」と答えた児童の割合が38%から45%に増加した。第3から第6学年でも32%から37%に増加した。

・「かわりの中で上達を実感したとき」を調査した結果、第1・第2学年では「上手な人からアドバイスされたとき」が31%から45%に増加した。第3から第6学年では「友達からアドバイスをされたとき」と答える児童の割合が34%から48%に増加した。

【1年目における実態・課題】

- ・登下校時を含め、児童のけがが多い。転倒した際に手をつかず、頭や顔を負傷する。
- ・コロナ禍の影響もあるが、体力の低下が著しい。
- ・朝から体の不調を訴える子が多い。
- ・運動面ばかりでなく、学習面でも諦めが早い。

⇒運動への興味・関心を高める。

⇒運動習慣を定着できるようにする。

【取組】

○授業（体育科）での取組

- ・一人1台端末を活用した「ICT 学習ノート」の構築及び運用
- ・オリンピック、専門家による出前授業の実施

○生活科・特別活動での取組（食育）

- ・農家での野菜栽培の体験、農家の指導によるミニトマトの栽培
- ・栄養教諭による「給食」を活用した食育の推進

○日常化の取組

- ・朝の時間、休み時間における「外遊びの奨励」

【取組（詳細）】

○ 体育科における一人1台端末の活用

- ・学習カードをデータ化したことで、いつでもどこでも学習を振り返ることができ、次時のめあてを立てやすくなった。
- ・お手本動画をいつでも確認できることで、動きのポイントを理解しやすくなった。



授業の振り返り（ICT 学習ノート）

動きの確認（遅カメの活用）

- ・技に取り組んだ様子が時間差で再生されることで、技の出来栄を確かめたり、課題に気付いたりすることができた。



○ オリンピアン・専門家による出前授業



小林史明さんの「陸上教室」

ゲストティーチャーによる

陸上運動の出前授業

- ・棒高跳び前日本記録保持者、日体大准教授、保護者 小林史明さん

ゲストティーチャーによる

「かけっこ教室」の実施

- ・オリンピック、本校卒業生 関根花観さん 専門家からの指導で、児童の意欲が高まった。

○ 生活科・特別活動における「食育」の推進

- ・バランスのとれたメニューを考える。ジャムボードを活用することで、感覚的に操作が可能となる。また子供たちの集中力も持続する。
- ・栄養教諭（講師）から給食の献立の作り方を学び、自分多たちで育てた野菜を使ったメニューを考え、残食を減らすことができた。



「育てた野菜でお好みメニューを作ろう」